

■ベネズエラ：政府、電力危機の対応策として、週4日労働を指示

2016年4月7日付のエネルギー情報サイトによると、ベネズエラのマドゥロ大統領は電力危機への対応策として6月第2週までの2カ月間を週4日労働（金曜日を休日）とすることを宣言した。また、政府はショッピングモールやホテルなどの大口需要家に1日9時間は自家発電で利用するように求めている。同国では、エルニーニョ現象による渇水が原因で、主力電源となっている水力発電所の出力が大幅に低下し、電力危機が発生している。政府は国民にもエアコンなど家電製品の節電を呼びかけているが、この数週間、公共機関は午後1時で業務を終了しており、市民生活にも支障が出ているとの情報もある。なお、ベネズエラは世界最大の原油埋蔵量を有するが、原油価格の下落で外貨収入が大幅に減少し、国内経済は景気後退に陥るとともに、2015年のインフレ率は180%に達している。